

快適な水環境を創造する流域下水道の整備（防災・安全）

計画概要

◆計画期間 令和02年度～令和06年度(5年間)

◆計画の目標

災害時に下水道として最低限の機能を確保するための耐震化等を図るとともに、設備の老朽化による処理機能低下を未然に防止するための改築更新を計画的に実施することで、良好な水環境を創造し、安心して快適に暮らせるまちづくりを実現する。

◆計画の成果目標(定量的指標)

指標①: 処理場の地震対策実施率を、74%(R2当初)から80%(R6末)に増加させる。
(その他関連する事業を含む)

指標②: 処理場における計画期間内に必要とされる改築更新を10処理区の機械電気設備に対して実施する。(その他関連する事業を含む)

指標③: 管きょ・ポンプ場における計画期間内に必要とされる機械電気設備の改築更新を8処理区に対して実施する。(その他関連する事業を含む)

評価内容

◆交付対象事業の進捗状況(中間年度)

| 交付対象事業 | 事業費※ | 事業の実施状況 | 進捗率※ |
|--------------|----------|----------------------------|-------|
| A (基幹事業名) | 9,653百万円 | 処理場施設等の地震対策、機械電気設備の改築更新を実施 | 27.4% |
| B 関連社会資本整備事業 | 0百万円 | — | — % |
| C 効果促進事業 | 0百万円 | — | — % |
| 合計 | 9,653百万円 | | |

※事業費は令和4年度末までの実績額

※進捗率(%)は各事業の計画に対する実施割合【事業費ベース】

◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況(中間年度)

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況 (別紙1)

災害時に最低限の機能を果たすために必要な施設に対する地震対策実施率を78%まで増加できた。機械電気設備の改築更新工事を9処理区の処理場、8処理区の管きよ・ポンプ場で実施できた。

Ⅱ 定量的指標の達成状況

指標①(処理場の地震対策実施率)

| | | | |
|-------|-----|----------------|---|
| 中間目標値 | 77% | 目標値と実績値に差が出た要因 | 工事の進捗に応じ、地震対策工事を早期に実施したため、中間実績値が中間目標値を上回った。 |
| 中間実績値 | 78% | | |

指標②(処理場の機械電気設備の改築更新)

| | | | |
|-------|------|----------------|--|
| 中間目標値 | 8処理区 | 目標値と実績値に差が出た要因 | 設備の点検結果を反映し、改築更新の時期を見直したため、中間実績値が中間目標値を上回った。 |
| 中間実績値 | 9処理区 | | |

指標③(管きよ・ポンプ場の機械電気設備の改築更新)

| | | | |
|-------|------|----------------|--|
| 中間目標値 | 7処理区 | 目標値と実績値に差が出た要因 | 設備の点検結果を反映し、改築更新の時期を見直したため、中間実績値が中間目標値を上回った。 |
| 中間実績値 | 8処理区 | | |

Ⅲ 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況(必要に応じて記述)

◆今後の方針

災害時に下水道としての最低限の機能を確保するため、地震対策が必要な施設を有する処理区について、引き続き地震対策を実施する。

また、適切な運転管理を行うため、処理場及び管渠・ポンプ場の機械電気設備の改築更新を計画的に実施する。

◆中間評価の実施体制、実施時期

| | |
|-----------|---|
| 中間評価の実施体制 | 策定主体にて評価を実施。なお、計画の各要素事業(基幹事業)は愛知県公共事業評価実施要領に基づき評価を実施。 |
| 中間評価の実施時期 | 2024年1月 |
| 公表の方法 | 愛知県建設局下水道課のWEBページ掲載 |

【基幹事業】

- 事業名 五条川左岸浄化センター(地震対策)
- 工事概要 連絡管廊耐震補強工事 一式
- 事業箇所 小牧市新小木地内
- 事業主体 愛知県
- 事業効果 耐震性能が不足していた管廊に耐震工事を実施することにより、地震発生時の機能(揚水・沈殿・消毒)を確保することができた。

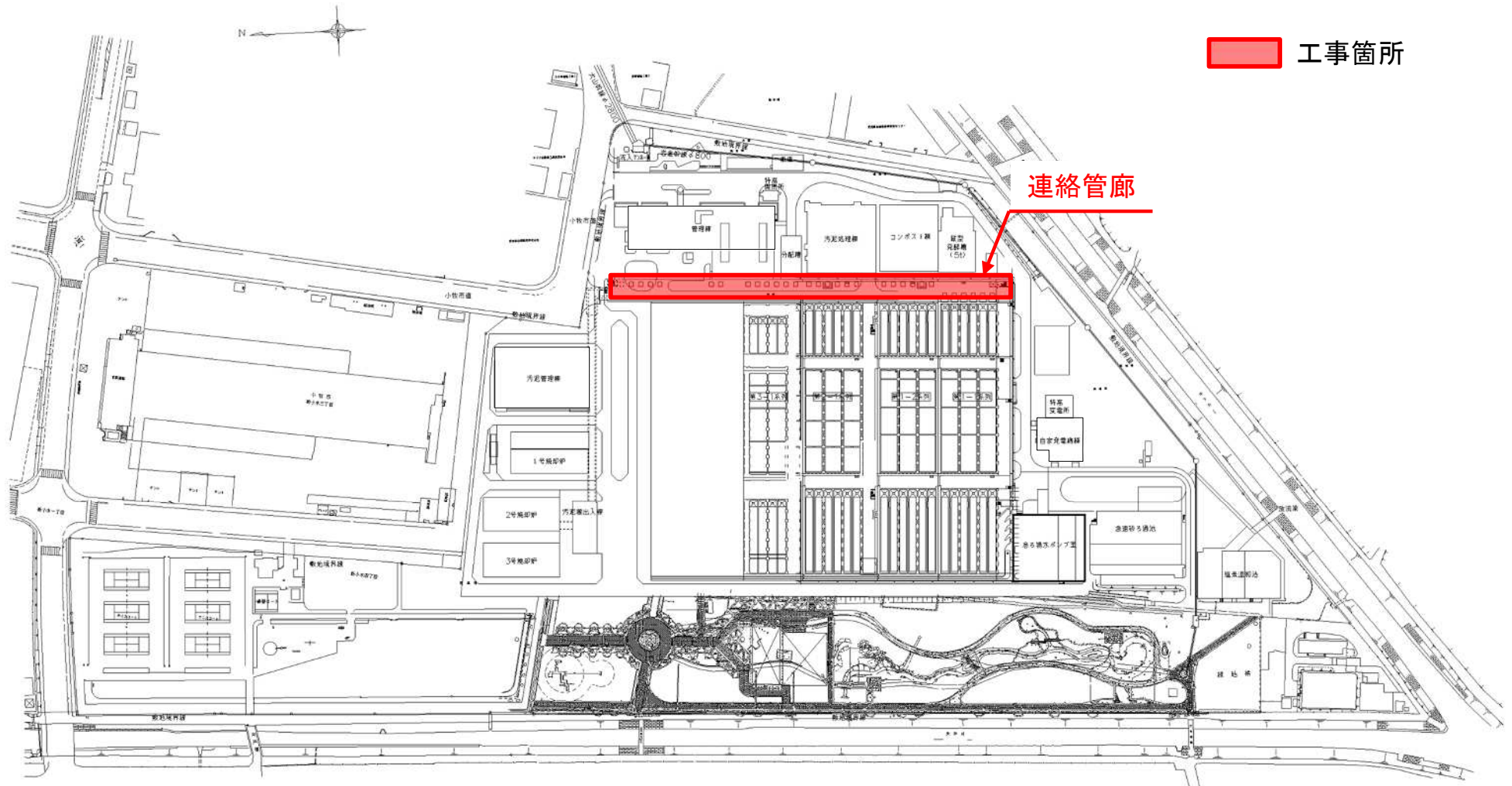
工事施工前



工事施工後



五条川左岸浄化センター 一般平面図



【基幹事業】

- 事業名 豊川浄化センター(改築更新)
- 工事概要 除塵機更新工事 一式
- 事業箇所 豊橋市新西浜町地内
- 事業主体 愛知県
- 事業効果 耐用年数を超過した施設を改築更新することにより、老朽化による故障等で施設が停止することに伴う処理機能の低下を防ぐことができた。

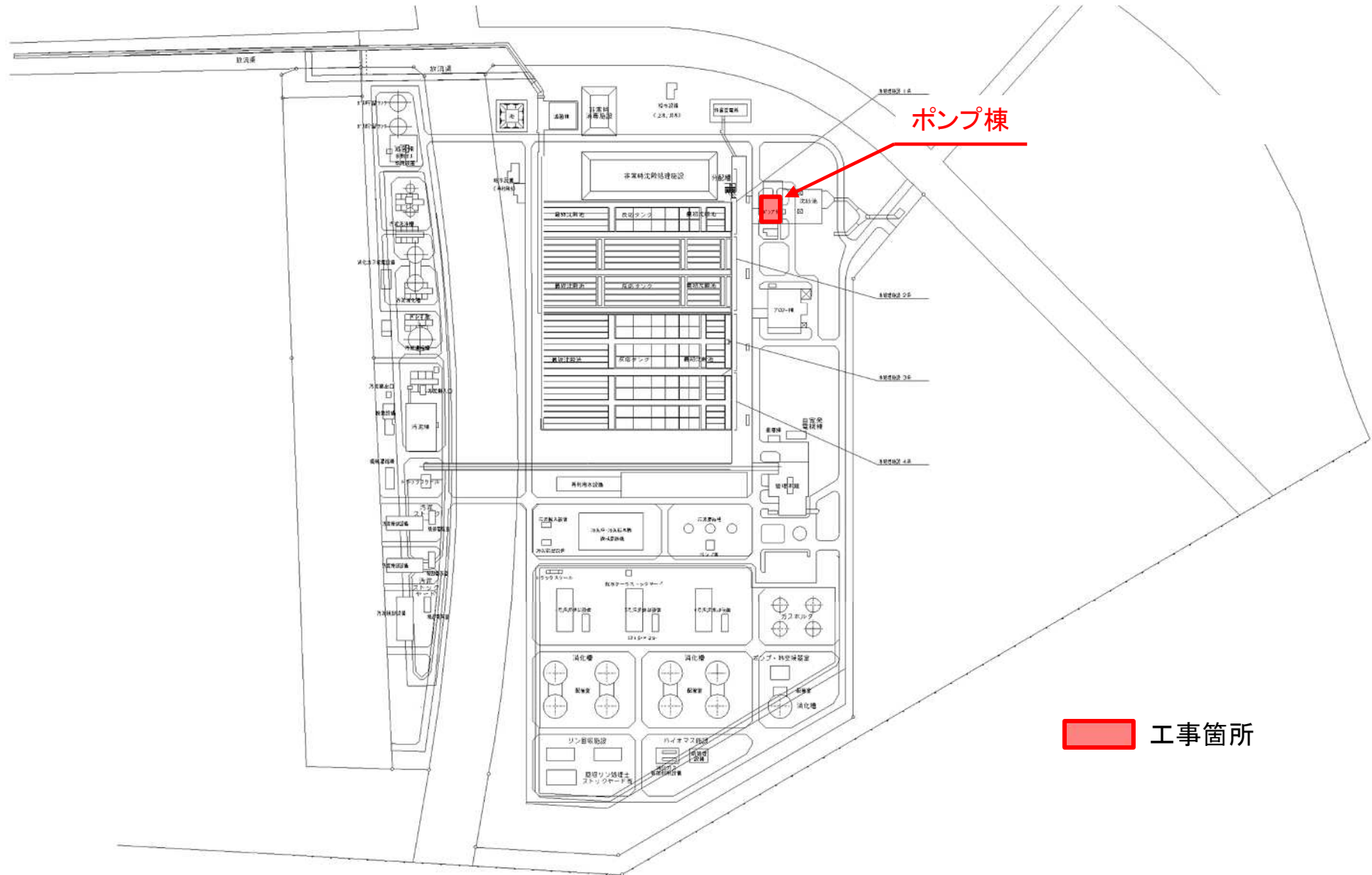
工事施工前



工事施工後



豊川浄化センター 一般平面図



工事箇所